

コキュラス・インディカス (COCCULUS INDICUS) ～Just You See より

キーノート：

イグナシアとコキュラスは、私が通常の診療で最も頻繁に使う女性用レメディである。コキュラスにはレパートリーから2つの症状があり、コキュラスのキーノートとなっている。

- ・不安：健康について：親族の：自分の健康はあまり心配しない

コキュラス患者は我が子と親族のことをひどく心配する。皆の世話をしたり、介護することを、ただ気にかけている。この特徴は顕著に現れるので、このレメディの主要キーノートのひとつである。

- ・悲しみ、落胆、抑うつ、ふさぎ込み：侮辱されることが原因であるかのように。

このルブリックはケントのレパートリーからの抜粋で、スタフィサグリア患者の症状と似ている。傷つきやすく、侮辱されたと感じやすく、すぐ憤慨し、すぐ悲嘆にくれる。この患者はよく一人で動き回り、一人で座っていたがる。誰とも何も一緒にやりたくないが、自分の仕事をやり続け、家族の面倒を見続ける。家族のことがますます心配になる。この2つが、このレメディを処方する上での主要な特徴である。

その他のキーノートは次の通り：

- ・車酔い
- ・関節がポキポキ鳴る
- ・腰のくびれが弱い
- ・食べ物、飲み物、煙草が嫌い
- ・睡眠不足で悪化
- ・診察すると痛みを伴う拘縮がある
- ・月経困難症で、暗い色の経血が大量に出る
- ・ヘルニア
- ・めまい — このレメディに目立つ特徴

ケント博士によるコキュラスの説明：

コキュラスの主な成分は、『苦い毒』という意味のピクロトクシンと呼ばれる物質で、その特徴のほとんどは、この成分によって生じる。このレメディは主に脳脊髄系に作用し、脊柱の不具合に応じて一種の麻痺を起こす。

脊椎の腰領域に特別な親和性がある。

筋肉の動きを司る神経系の一部にも作用する。

よって、脚、太もも、背中に力が入らないことを示す多くの症状に遭遇した。

コキュラス患者は、常に背中が麻痺しているようだと訴える。

下肢が思うように動かなくなっている；歩行中、脚を持ち上げることができず、引きずっている。膝は力が入らずにガクンと下がり、歩行中、実際によろめいて、倒れそ

うだ。

足の裏が痺れる。これらの症状は実にコキュラスらしい特徴で、私たちをこのレメディへと導いてくれるはずだ。虚弱状態で力が入らないのは下肢だけに限らない。四肢全部が震えているのに気づく。

コキュラス患者は全身がだるい。立っているだけでかなりの重労働である；

話すことさえ労力が要る。

気分の悪さと吐き気に関連して、常に失神する恐れがあり、全ての感覚が過敏で、ますます感受性が高まり、驚き、身震いする。

痺れがあちこちに移動し、不可解にも現れたり消えたりする。

うつ病はコキュラスの顕著な特徴である。」

コキュラスは、心身の全ての活動スピードが遅くなり、ある種の麻痺のような虚弱状態を作り出す。全ての行動が遅くなってしまう。全ての神経反応が脳中枢に届くのが遅い。

この患者の足の親指をつねっても、即座には反応せず、1分くらい経過してから「おっ！」と言う。質問に対する返答も遅く、一見、じっくり考えているように見えるが、考えようとしているだけである。よって、神経組織、思考、筋肉組織は全て活動しているのに、虚弱なので、筋肉を使った激しい活動には耐えられない；疲れている。最初は動きがのろくなり、やがて、見た目にもわかる麻痺症状が始まり、やがて完全に麻痺状態になる。

コキュラスは脳卒中患者と下半身不随患者の主要なレメディである。